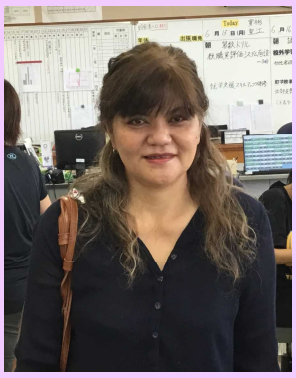
第８号　本小の教育「授業研修会」　6年特設

・インクルシーブ教育 『 脳の引き出し 』

今回の特設授業「脳の引き出し」は、６年３組（澤岻逸子）で実施しました。高学年のクラスでの【授業目標】は、「①自分のことを知る。②友達のことを知る。③支え合うことの大切さを知る。」の３点です。子供達は、「脳の引き出し」の授業を過去にも受けていて、「フワフワ言葉」や「セロトニン」は、スムーズに出てくる。学級の支持的風土や、学習規律に関しても、さすが「最上級生」である。集団の中で個々を伸ばせる素地を感じたし、その可能性は充分に持っていると確信した「授業風景」でした。６年生、凄いですね！！

■ 6年3組（特設）「河津 さゆり（澤岻 逸子）」先生 4校時目



【児童の手（学習規律）】

【（上）挙手の仕方、（下）書く姿勢】

◆ロッカーの整理・整頓、教室が整然してる。
◆机上に必要なものだけが準備されている。
◆子供達の「学習規律」は、とても良かった。
◆さすが「最上級生」である、自覚を感じた。
◆自己の事だけでなく、友達の良さも発見。
◆聴く、話す、書く、考えるのけじめが良い
◆当たり前のことが、当たり前に出来ている。
◆本時の学習の「授業目標」を理解している。
◆発表者は、発表の仕方が適切に出来ていた。
◆周りの子達は、発表者へ体の向きを揃えた。
◆発表後は、賞賛（承認）の拍手を送った。

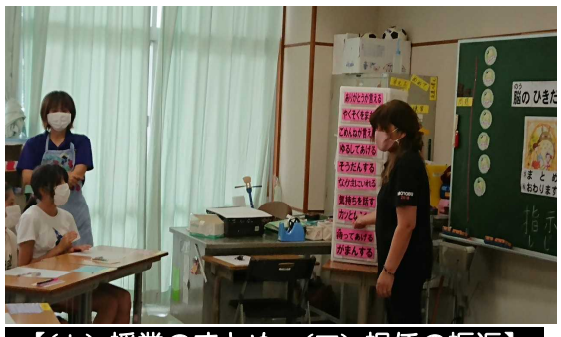
【教室の色（支持的風土）】

【全学級共通・「六年生のちかい」掲示】

【発表の仕方、聴く姿勢、支持的風土】

●学級・学年経営の「そろえる」を感じた。
●子に最上級生を意識させる教師の取組み。
●一人一人が目をキラキラ輝かせて取組む。
●さゆり先生の授業展開は、流石に凄い！
●支持的風土づくりの４POINTを踏まえてる
●クラスの人間関係を構築、高めながら進む
●子供達が自然に、自分の考えを口にする。
●「魔法の言葉」セロトニンを巻きながら、
●「安心」「所属」「承認」に包まれながら、
●「本時の目標」へと、「自立」へと、進む。
●学級経営の基盤も素晴らしいと感じました

【教師の眼（教師の姿勢）】



【（上）授業のまとめ、（下）担任の振返】

■担任の話：「カッとなりやすい」「許してあげる」の引き出しを指して、子供達に問う。と、
子供達：「２くらい、いや、３くらい」
校長の手前、「担任を忖度？」
まあ、それも良し。学級の空気の流れが良い。
■「児童の手(学習規律)」、「教室の色(支持的風土づくり)」、「教師の眼(教師力)」全てが６学年で「そろえて」いる。最上級生としてのリーダー性をはぐくんでいると感じた。
■さゆり先生も、中学年・高学年の全クラスでの授業に感謝ー。　「いつやるの？　今でしょ！」

■では、「校内研 テーマ（仮説）」や、「県・学推 の取り組み」との　関わりは ？　どうなの ？　ねぇ　・・・ ①

研究の仮設
（1）「自己肯定感」を育むことで、子供達は「自信」を持って「自主的・自発的」に物事に取り組む姿勢や態度が・・
（2）「学び・育つ」為には、「主体的・対話的な深い学び」の基で「学び合い、認め合い、高め合う」教育活動を・・
（3）「組織的な関わり」の中、「学校力」「教師力」「人間力」

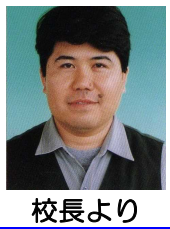
研究の目標
（1）「自己肯定感」「自己存在感」「自己有用感」を育むことで、子供達に「自信」を持たせる。
（2）「授業改善」は、「主体的・対話的な深い学び」、特に「会話」でなく「対話的」に拘った話し合い活動を
（3）「組織的な関わり」、先ずは、同学年・隣学年、

学推
Ⅰ．「非認知能力」育成の合言葉
（1）「時を守り、場を浄め、礼を正す」（時間）（空間）（世間）
（2）「人間関係づくり」⇒「学級経営」を基盤とす「集団性」
（3）「やり抜く力」（グリット Grit）を身につける

学推
Ⅱ．「メタ認知能力」育成の合言葉
（1）「基本話型」「基本聴型」「学習規律」「支持的風土」
（2）「授業改善」⇒「主体的・<u>対話的な</u>　深い学び」
（3）「学習を支える力」⇒「規範意識」「対話の充実！」

【感想】　「脳の引き出し」⇒「脳を活性化させ」⇒「子供の脳を育てる」⇒　深い「学び・育ち」へ！

○「先ず、授業は、子供達は、教師も」本当に素晴らしい。「教科指導」でない分、全員が参画出来る。
○「今回は、脳の引き出し授業から、本校の校内研・県学推へ「繋げ」「広げる」話を進めて行きたい」
○「上記に示した通り、校内研テーマ（仮設）及び　県学推への取り組みは、リンクし連動している。」
○「今、必要な「自己肯定感」「夢と現在をつなぐ」「自分の存在意義」「連帯と協働」が詰まった授業」
○「この授業をキャリアパスポート活用へ、学習成果へ、学校生活へ、「自己管理能力」【自己実現】へ」
○「脳について理解し、効果的な方法で【授業改善】、【学校改善】、【自己実現】を図って行きましょう」



校長より